

宮城県築館高等学校一迫商業キャンパス・宮城県一迫商業高等学校

令和7年度 学校評価アンケート（まとめ）

質問項目：22項目

（宮城県公立高等学校共通項目：14項目、学校独自の質問項目8項目）

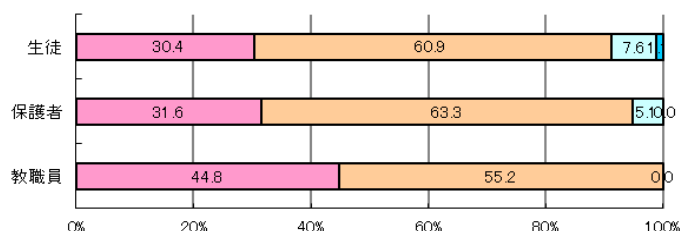
【回収率】 生徒：93/92（98.9%） 保護者：93/80（86.0%） 教職員：32/29（90.6%）

【評価】 1：よく当てはまる 2：だいたい当てはまる 3：あまり当てはまらない 4：当てはまらない

[宮城県公立高等学校共通項目]

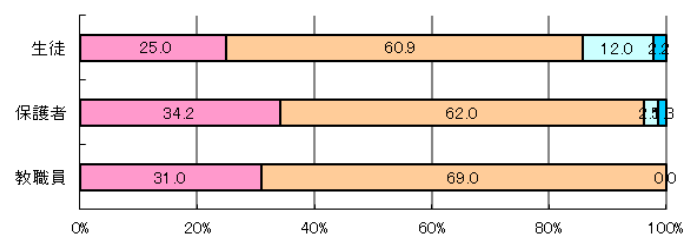
1. 学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている（教育課程）

(%)	1	2	3	4
生徒	30.4	60.9	7.6	1.1
保護者	31.6	63.3	5.1	0.0
教職員	44.8	55.2	0.0	0.0



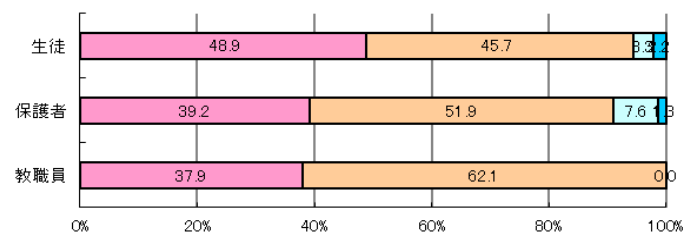
2. 生徒の学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている（学習指導）

(%)	1	2	3	4
生徒	25.0	60.9	12.0	2.2
保護者	34.2	62.0	2.5	1.3
教職員	31.0	69.0	0.0	0.0



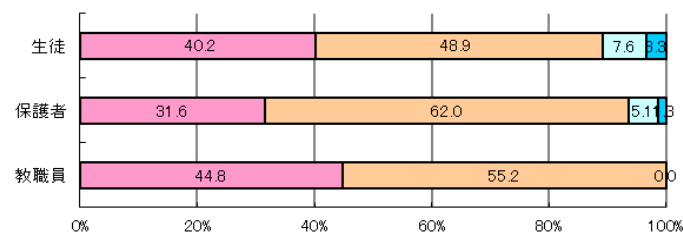
3. 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている（生徒指導）

(%)	1	2	3	4
生徒	48.9	45.7	3.3	2.2
保護者	39.2	51.9	7.6	1.3
教職員	37.9	62.1	0.0	0.0



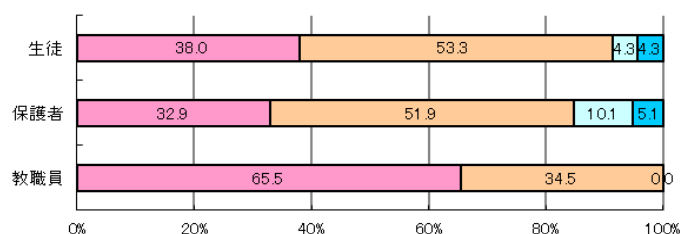
4. 生徒の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている（進路指導）

(%)	1	2	3	4
生徒	40.2	48.9	7.6	3.3
保護者	31.6	62.0	5.1	1.3
教職員	44.8	55.2	0.0	0.0



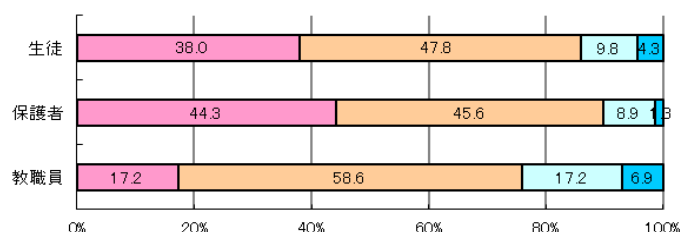
5. 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている（教育相談）

(%)	1	2	3	4
生徒	38.0	53.3	4.3	4.3
保護者	32.9	51.9	10.1	5.1
教職員	65.5	34.5	0.0	0.0



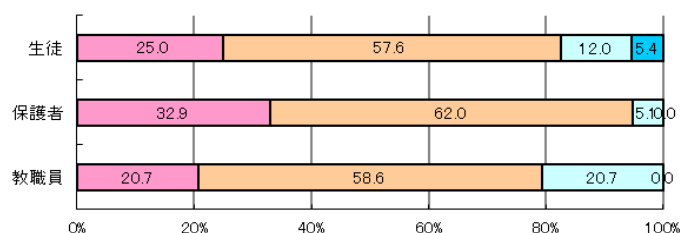
6. 学校として、部活動は積極的に行われている（部活動）

(%)	1	2	3	4
生徒	38.0	47.8	9.8	4.3
保護者	44.3	45.6	8.9	1.3
教職員	17.2	58.6	17.2	6.9



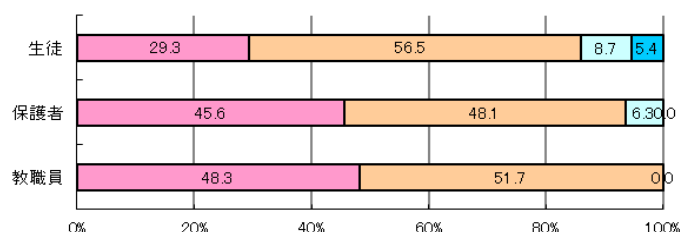
7. 学校として、生徒会活動は積極的に行われている（生徒会活動）

(%)	1	2	3	4
生徒	25	57.6	12	5.4
保護者	32.9	62	5.1	0
教職員	20.7	58.6	20.7	0



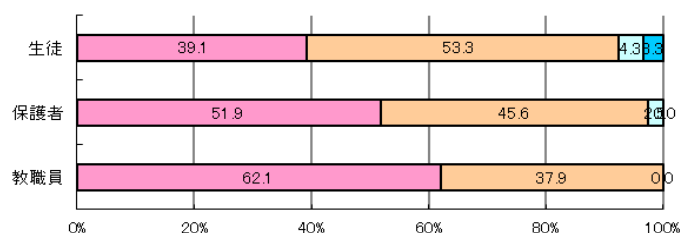
8. 生徒にとって、有意義な学校行事がある（学校行事）

(%)	1	2	3	4
生徒	29.3	56.5	8.7	5.4
保護者	45.6	48.1	6.3	0.0
教職員	48.3	51.7	0.0	0.0



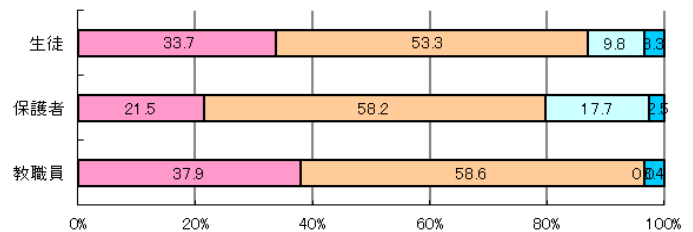
9. 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる（特色ある学校づくり）

(%)	1	2	3	4
生徒	39.1	53.3	4.3	3.3
保護者	51.9	45.6	2.5	0.0
教職員	62.1	37.9	0.0	0.0



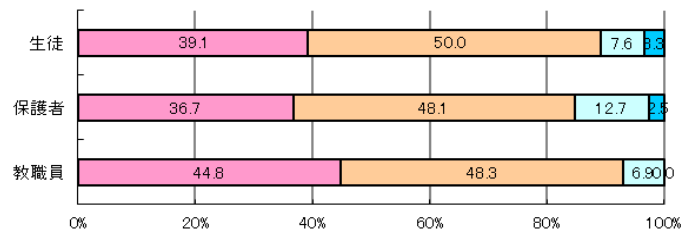
10. 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている（防災教育）

(%)	1	2	3	4
生徒	33.7	53.3	9.8	3.3
保護者	21.5	58.2	17.7	2.5
教職員	37.9	58.6	0.0	3.4



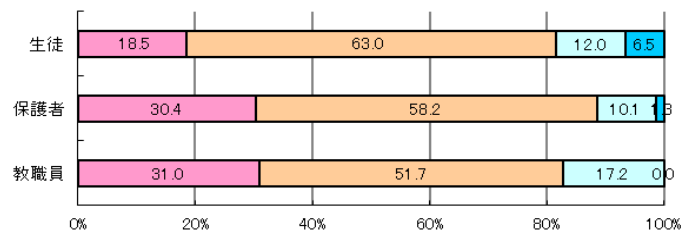
11. ホームページや学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている（開かれた学校づくり）

(%)	1	2	3	4
生徒	39.1	50.0	7.6	3.3
保護者	36.7	48.1	12.7	2.5
教職員	44.8	48.3	6.9	0.0



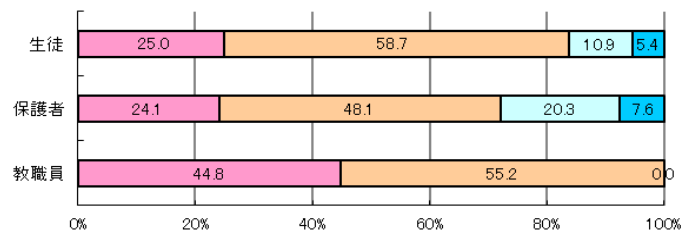
12. 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている（施設設備）

(%)	1	2	3	4
生徒	18.5	63	12	6.5
保護者	30.4	58.2	10.1	1.3
教職員	31	51.7	17.2	0



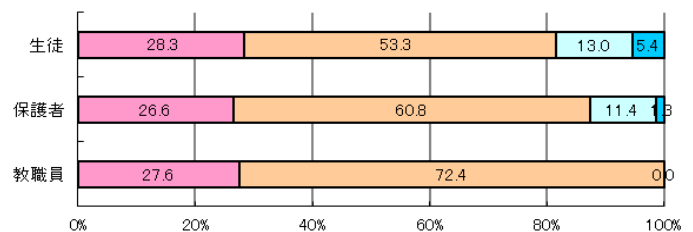
13. 学校として、いじめの問題に対して連携する体制がとれている（いじめ問題）

(%)	1	2	3	4
生徒	25.0	58.7	10.9	5.4
保護者	24.1	48.1	20.3	7.6
教職員	44.8	55.2	0.0	0.0



14. 生徒の学校生活は充実している（総合満足度）

(%)	1	2	3	4
生徒	28.3	53.3	13.0	5.4
保護者	26.6	60.8	11.4	1.3
教職員	27.6	72.4	0.0	0.0



(生徒・保護者データの分析)

今年度は担当やクラス担任による丁寧な呼びかけから、アンケートの回収率が生徒で5%、保護者で9.2%と大幅に上昇した。しかし、生徒数の減少により回答数の規模から一人の意見が全体の結果に影響を与える可能性があることを踏まえつつ、全体傾向を中心に分析を進めたい。今年度のアンケート結果では、1年生（一迫商業キャンパス）の前向きな意見が2・3年生（一迫商業高校）と比較して低くなる傾向が見られ、「生徒の学ぶ意欲を引き出す授業（学習指導）」については15.6%低くなるなど、大きな差がみられる項目があった。これは、学校生活に十分に適応できていない生徒が一定数いることを示しており、今後も支援体制の充実が求められる。

総合満足度：生徒全体で昨年度比7.5%の低下。特に「いじめ問題に対する体制」に関する評価が、生徒で-6.5%、保護者で-12.0%と大きく低下した。早期発見に徹し適切な対応をしているが、今後は保護者との連携を強化し、未然防止を含めた体制整備が必要である。

基本的生活習慣の指導：生徒の評価は横ばいだが、保護者の評価が低下。家庭との連携や情報共有の強化が求められる。

情報発信（ホームページ・学校便り）：生徒で-7.7%、保護者で-7.3%の低下。情報発信の頻度や内容の充実を図り、より有益な情報提供を目指す。

教育相談体制：2・3年生では96.9%が肯定的評価を示す一方、1年生は78.5%と18.4%の乖離。スクールカウンセラー（SC）の活用を促し、1年生への支援を強化する。

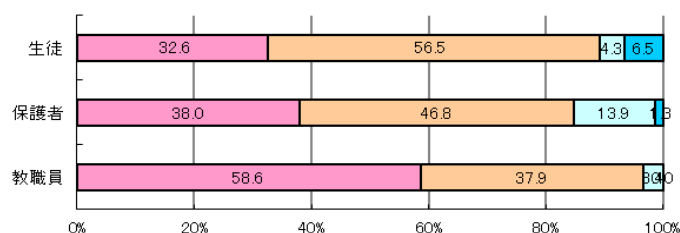
防災体制の周知：2・3年生と1年生の生徒の間で32.6%の評価差。1年生に対しては、説明や訓練を通じて理解と安心感を高める取り組みが必要。

今年度は特に、1年生で課題を抱える生徒への継続的な支援の必要性和、全学年保護者との情報共有・連携の充実が重要な課題として浮かび上がった。今後も継続的な改善を図りながら、生徒・保護者双方の満足度向上に努めていきたい。

[学校独自の設定項目]

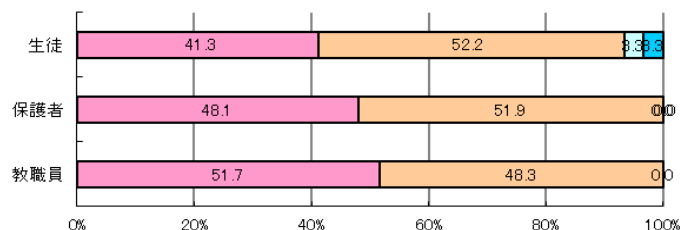
15. 本校の校訓『誠実・自律・奉仕』を知っている

(%)	1	2	3	4
生徒	32.6	56.5	4.3	6.5
保護者	38.0	46.8	13.9	1.3
教職員	58.6	37.9	3.4	0.0



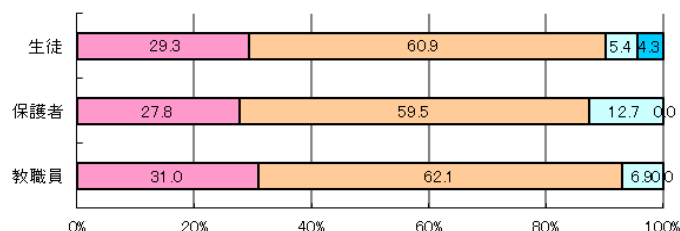
16. 本校の授業日数や授業時数は十分に確保されている

(%)	1	2	3	4
生徒	41.3	52.2	3.3	3.3
保護者	48.1	51.9	0.0	0.0
教職員	51.7	48.3	0.0	0.0



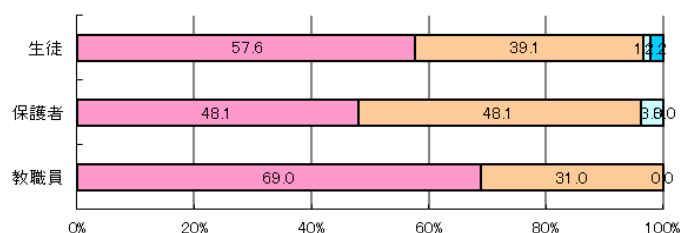
17. 本校では、学力の向上に向けた対策を充分に実施している

(%)	1	2	3	4
生徒	29.3	60.9	5.4	4.3
保護者	27.8	59.5	12.7	0.0
教職員	31.0	62.1	6.9	0.0



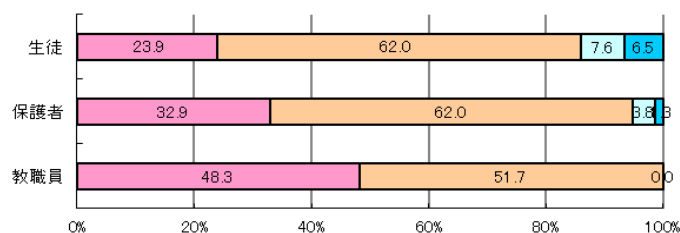
18. 本校のICT機器（パソコンなど）の学習環境は整っている

(%)	1	2	3	4
生徒	57.6	39.1	1.1	2.2
保護者	48.1	48.1	3.8	0.0
教職員	69.0	31.0	0.0	0.0



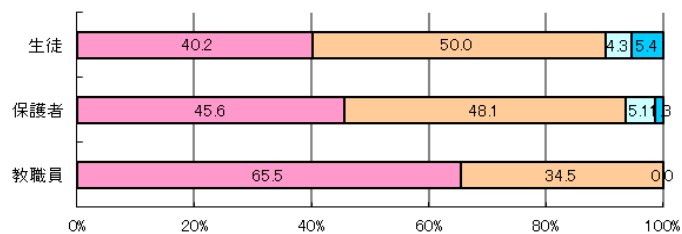
19. 本校は、清掃など美化に努めている

(%)	1	2	3	4
生徒	23.9	62.0	7.6	6.5
保護者	32.9	62.0	3.8	1.3
教職員	48.3	51.7	0.0	0.0



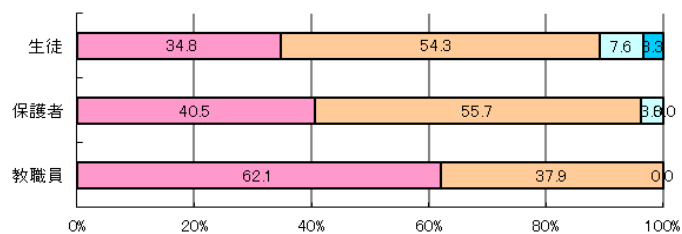
20. 本校が実施している栗原版デュアルシステム（企業実習・起業家研究・販売実習）の取り組みを知っている

(%)	1	2	3	4
生徒	40.2	50.0	4.3	5.4
保護者	45.6	48.1	5.1	1.3
教職員	65.5	34.5	0.0	0.0



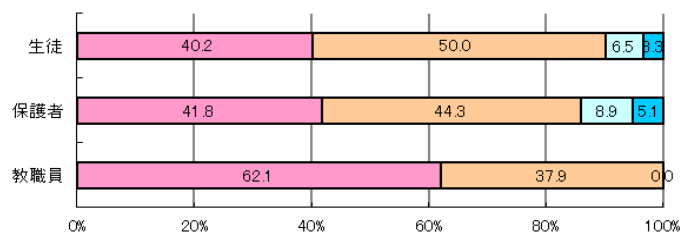
21. 本校の教育活動は、地域貢献につながっている

(%)	1	2	3	4
生徒	34.8	54.3	7.6	3.3
保護者	40.5	55.7	3.8	0.0
教職員	62.1	37.9	0.0	0.0



22. 本校の職員は、生徒にいていないに対応している

(%)	1	2	3	4
生徒	40.2	50.0	6.5	3.3
保護者	41.8	44.3	8.9	5.1
教職員	62.1	37.9	0.0	0.0



質問項目15

校訓の認知に関する質問では、昨年度比で生徒が5.5%、保護者が2.0%減少したものの、依然として高い認知率を維持している。校訓は本校の教育理念を象徴するものであり、学校経営の方向性を示す重要な柱でもあることから、校訓の意義や教育活動とのつながりを、より丁寧に生徒・保護者へ発信していくことで、理念の共有を深めたい。保護者との連携を一層強化しながら、理念に根ざした学校経営を着実に推進していく。

質問事項16

生徒のポイントは前年を下回ったが、保護者は100%であり、授業日数は十分に確保されていると思われる。

質問事項17

生徒、保護者は共に前年比を下回った。到達度テスト（1年）、基礎力診断テスト（2, 3年）や一商タイムでの取り組みが結果に表れず、学力の向上を実感できていないことも考えられる。

質問事項18

生徒、保護者共に前年比を上回った。多くの科目でICT機器を活用した授業が展開されていること、また一商タイムで全学年がタブレットを使用していることなどが要因と考えられる。

質問項目19

保護者からは2・3年生、1年生ともに高い評価だったが、2・3年生の生徒の評価が-7.5ポイントとなり、1年生もほぼ同じ数字だった。普段の清掃においては、全教職員で指導に努めているが、生徒数減少により、全ての清掃箇所を毎日行うことが困難な状況になってきている。曜日で分けて清掃したり、普段手が行き届かない箇所については、月末に特別清掃日を設け清掃したりするなど、対応にあたっているところである。

質問項目20~22

項目20の栗原版デュアルシステムの周知では、年々上昇してきている。昨年度より生徒が1.1ポイント、保護者が5.6ポイント上昇し、両方とも肯定的な評価が90%を超えた。本校の魅力ある教育活動が多くの人に理解してもらえており、今後も本校の商業教育の中心となることを期待している。

項目21では、1, 2年生を中心に肯定的評価が下がり、全体の肯定的評価が90%を下回った。1, 2年生はまだ自分たちの教育活動が地域の活性化につながることを実感できていないようである。保護者の評価が昨年度とほぼ変わらないことを考えると、生徒は学校の中だけで学習内容を捉えており、大きな視点で地域との関わりを実感させながら今後指導していく必要性を感じた。

項目22では、残念なことに生徒・保護者とも肯定的評価が4~5ポイント下がってしまった。全体を見れば、高評価ではあるものの「当てはまらない」と回答している人もいることから、この評価を真摯に受け止め、改善につなげていく必要がある。